

全国学力・学習状況調査結果についての紹介（その1）

4月21日に『全国学力・学習状況調査（以下、全国学力調査）』が行われました。この全国学力調査は、全国の小学6年及び中学3年生を対象に実施されたものです。

実施教科は「国語」「算数・数学」の2教科で、主として知識に関する「A」、主として活用に関する「B」の二つの問題による調査が行われました。同時に子どもたちの生活や学習状況のアンケート調査も行われています。

その結果につきましては文部科学省の公表にもとづき、全国と佐賀県の結果と分析が8月28日付けの新聞等で報道されました。

小城市の子どもたちの状況を【学力の面】・【生活や学習状況の面】という二つの視点で分析し、今回はまず、【学力の面】の結果について、その概要を報告します。

なお、ここでのいう学力は、『学力テスト』で測ることのできた学力の一部分であり、子どもたちの持つ学力の全てを示すものではありません。

「国語」



国語においては、学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4つの領域ごとに設問がなされています。

●小学校

○平均正答率は、国語A・Bとも全国・県の平均正答率よりやや下回る結果でした。○「話すこと・聞くこと」では、自分の立場や意図を明確にし、表を使って話し合

う問題と話の組み立てを工夫しながら、図を使って説明する問題でしたが、課題が見られました。

話すことや聞いたことを記述する力を高めることが大切です。また、説明的な文章を読んだり書いたりする活動を多く経験することもあります。

○「言語事項」では、出題の漢字の読みと書きについて、多くの児童が理解できていました。

しかし、接続語を使って内容を使い分けて書くことや文字を正しく整えて書くことに課題がありました。また、ローマ字を正しく読んだり書いたりすることに課題が見られました。

漢字やローマ字に対する興味・関心を高めたり、生活の中でローマ字をすすんで読んだり書いたりする習

慣を付けることが大切です。

○「書くこと」では、実験報告文の内容に適切な小見出しを書く（選択する）問題でしたが、「方法」「予想」「結果」の短いことばで見出しを書くことは多くの児童が理解していません。

報告文の様式や書式についての知識を増やすことや書く活動の充実を図ることが必要です。

○「読むこと」では、説明的な文章の一部を読んで、筆者の表現の工夫や考えをとらえる問題でしたが、全国より大きく下回りました。表現の工夫に気づいたり、筆者の考えを自分のことばで書き換えたりする活動が必要でした。

また、自分の考えを広げたり深めたりするために、本や文章を選んで読み、内容や表現の工夫、筆者の考

えをとらえることも大切です。

●中学校

○国語A、Bともに県の平均正答率と並ぶことができ、全国の平均正答率とほぼ同じという結果です。

○漢字の読み書きでは、昨年度同様、書くことが全国を大きく上回りましたが、辞書の活用にまだ課題が見られます。辞書を普段から利用する習慣をつける必要があります。

○スピーチの場での効果的な話し方や話の展開の仕方を考える問題で正答率が低くなっています。授業や学級会などではもちろんのこと、積極的に自分の考えを述べる場の設定と指導が大切です。

○古文や歴史的仮名遣いの理解に関する問題は大変良好でしたが、文脈の中でふさわしい語句を適切に使うと

いった問題で低い正答率で
した。特に敬語や同音異義
語について課題が見られま
した。

○同じ読み取る力でも、短歌
ではやや低い正答率でした
が、詩では全国を上回る結
果でした。特に詩の内容や
表現について、読み取った
ことをもとに適切な写真を
選び、自分の考えを表す問
題は、全国の高正答率を大
きく上回りました。

○全体的に、中学国語は昨年
度より向上していますが、
効果的な話し方の工夫や辞
書の活用、幅広い言葉への
理解など課題もあります。
これらを克服するには、学
校での指導のあり方の改善
はもちろんのこと、家庭と
学校が連携してさらに読書
活動や、日常から言葉を吟
味して表現する習慣づくり
を生活の中に広げていく必
要があるようです。

「算数・数学」

$$\begin{array}{r} +5 \\ 12 \\ 18 \\ \hline \end{array}$$

算数・数学においては、学
習指導要領の4つの領域「数
と計算」「量と測定」「図形」
と「数量関係」で出題されまし
た。

●小学校

○平均正答率は、算数A・B
とも全国・県の平均正答率
よりやや下回る結果でした。

○「数と計算」では、小数の
除法、減法と除法の混合し
た整数の計算、数の構成、
四捨五入して概数で表すこ
とについての理解が大きく
下回っていました。これに
は、計算の仕方を考えたり、
さまりに従って計算したり
することを理解する必要が
あります。また、数を概数
で表す機会を設けて繰り返
し学習する必要があります。
○「量と測定」では、長さに
ついての感覚を問う問題と

三角形の面積を求める問題
に課題が見られました。ま
た、カードの敷き詰め問題
にも課題が見られました。

身の回りの様々な長さの
見当付けができるようにし
たり、面積を求めるために
必要な長さを測定できるよ
うにしたりすることが必要
です。また、数量や図形の
特徴に着目して解決方法を、
図や式や言葉を用いて筋道
を立てて説明できるように
なることが大切です。

○「図形」では、長方形、直
角三角形の定義や性質につ
いての問題で課題が見られ
ました。図形を構成する要
素に着目することや用語の
理解を定着させることが大
切です。

変化の様子をとらえる設問
に課題がみられました。

●中学校

○小城市全体としては、全国
や県と比較して、正答率が
やや低い結果となりました
が、その差は昨年度より大
きく縮まりました。

○具体的な数字を使った計算
問題や数と式に関する基本
的な問題は良好で、特に方
程式を解く問題や等式の変
形などの正答率は、全国平
均を大きく上回りました。

○具体的なことから結びつ
けて数式の本質的な意味を
理解する。また、事象を数
学的に表現して説明する、
問題解決の方法を数学的に
説明するなど発展的で応用
力を求める設問は、全国平
均を下回っています。

○図形では、立方体の展開図
や多角形の外角の和に関す
る問題など一部全国を上回

りましたが、全体的には課
題があります。

○数量関係では、比例定数の
意味の理解や、具体的なこ
とから反比例や関数の
式を導くなどの設問で、全
国平均を下回っています

○理解が不十分な内容につい
ては、繰り返し学習を積み
重ねることが大切です。ま
た、学習内容の本質的な意
味を理解しようとする、問
題を解決するまでの過程を
大切にしたい学習を行おうと
する習慣づくりが必要なの
です。

次回は、本調査から見られ
ます、小城市の子どもたちの
【生活や学習状況の面】につい
て紹介します。

【問合せ】学校教育課

担当 小森・原口

☎73-8807